

「障がい児を授かって・・・」

次男の楽登が「他の子と何か違うかも」と疑いはじめたのは彼が1歳になる少し前からでした。家族や世間に「楽登は障がいがあるのでは」と気付かれる前に、自分で何とかしようとあの頃の私は必死でした。良いと思われることは全て実践しました。でも、それは楽登の“違い”を受け入れるためではなく、他人に見つかる前に“普通”にするためだったのです。あの頃の私はどん底で死にたい毎日でした。今、目の前にドラえもんが現れたなら、タイムマシンでその当時の自分に会ってこう言いたいです。「大丈夫、大丈夫、未来のあなたは笑っているよ」と。障がいがあったって大丈夫。だって毎日、こんなに楽しくって刺激的で感動に満ち溢れているのです。今は楽登に限らず、全ての違いを受け入れ楽しめるようになりました。

楽登は小学校2年生の冬から少しずつ話せるようになってきました。カタコトの日本語で話せるようになった楽登からは、優しい言葉がたくさんたくさんあふれ出てきます。楽登の夢は、全ての生き物が、自分らしく存在する事。それは現在に留まらず、絶滅した動物にさえも「よみがえらせてあげるからね」と図鑑にむかって叫びます。過去も現在も未来も、彼には関係ないのです。

ずっと飼っていた猫のポチの話です。ネコのポチは、13年たってボケてしまい、毎日何度もあつちこちにウンコやオシッコをたれながします。ついカッとしてしまう私に、「人生いい時もあれば、悪い時もある、今がその時なんだ。ポチもいい時があった、悪い時があってもいいじゃないか」といつも言っていました。このセリフでカッとなる心をクールダウンできました。その後ポチは亡くなってしまい、悲しくて涙が止まらない私に楽登は「胸の心で生きている、ほらポチはゆみこが会いたいと思えば、いつも見えるよ。見てごらん、抱きしめてごらん」と言ってくれました。

楽登はいつも真剣です。カッコつけも、見栄も、悪口もありません。こんな楽登と触れ合う度、楽登の人間の真実だけを伝える言葉と出会う度、私にこんな風に思う力はあるのかなって考えさせられます。楽登と出会わなければ知らなかった感情です。楽登の優しさに出会う度、楽登が世間から言われる「障がい者」であったとしても、むしろそれで良かった、楽登で良かったと、思えるのです。今でもたまに落ち込んで立ち上がれないこともありますが、楽登と出会って違いを受け入れ、今を受け入れたことで、過去の私も今の私も許せてまた一歩進めるのです。

楽登は自由だし、好きなことや嫌いなことも何も隠さずはっきり言ってしまい困ったことばかりあるように見えるかもしれませんが。障がいを持つ彼らはちょっとみんなと違うかもしれませんが。でもみんなと同じ大切な存在で、みんなと同じように、一度きりの人生を楽しく生きたいと思っています。彼らの世界を壊すのではなく、ありのままの彼らを受け止めてほしいのです。健常児も障がい児も、かわいい我が子には違いないのですから。もっともって彼らのことを、知ってもらえたら・・・そんな思いを込めてここに書きました。

竹内 由美子 (NPO法人じゃんぐるじむ 理事長)

ウィルあいち交流ネット参加グループ

- *さわらび会
- *メンズリブ名古屋
- *ア・コール
- *女性学'98の会
- *IPA
- *メディアの会かたつむり
- *ウィル10
- *A・B・C・Net
- *C・C・C
- *グループ・キートス
- *クラリネット'99
- *2000女性学の会
- *ウィル2000
- *I. W. L
- *ウィル・ミニ・ボックス
- *ウィルドo2002
- *平成いちご会
- *きらら2005
- *サーティネット '05
- *ベリーズ18
- *Step07
- *トライアングル '08
- *まちづくりファシリテーター勉強会
- *Fem.'09
- *Amelie' 10
- *なでしこAICHI
- *きりり24

ウィルあいち交流ネットとは…

ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループで組織された団体です。

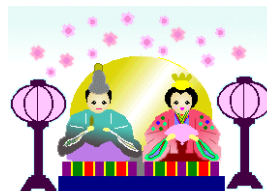




男女共同参画は、日本の希望(9)専業主婦がいることを前提とした雇用慣行

前回まで、管理職女性は未だ少なく、フルタイムで働く既婚女性も少数など、経済的に活躍する女性がなかなか増えないという現実、そして、女性の経済的活躍の立ち後れが、企業業績が伸びず、少子化をもたらし、消費が停滞するなどさまざまな点で、日本経済の足を引っ張っている現状を説明してきました。逆に言えば、女性が活躍することができれば、企業も活性化し、少子化は反転し、消費も活性化することになります。では、なぜ、女性が経済界で活躍する事ができないのでしょうか。男女雇用機会均等法ができて30年経とうとしているにもかかわらず、です。もちろん、差別的意識がまだ残っている事は事実でしょう。大きいのは、日本的雇用慣行が、女性の活躍を妨げているということです。それは、新卒一括採用、終身雇用、年功序列慣行、正社員と非正規社員の大きなギャップ、その結果としての正社員の長時間労働慣行です。これらの日本的労働システムは、一体となって、女性の活躍を妨げます。なぜならこれらの慣行は、正社員には「専業主婦がいる」ことを前提としているからです。日本は、先進国の中では男女とも長時間労働者がもっとも多い国です。短時間労働者や非正規雇用者が増えているので、平均すれば長くはないですが、正社員に限れば、先進国一です。それ以上に、正社員であれば、長時間労働を断る自由がないことが問題なのです。週50時間以上働く労働者の割合は、男性は40%、女性でも10%を超えます。アメリカでも男女とも10%未満ですし、ヨーロッパ諸国ではもっと少ないです。日本の正社員女性（女性被雇用者）は、先進国女性の中でもっとも長時間働いているのです。私は、オランダでピア

リングをしたとき、長時間労働者はいないのかという質問に、もちろん仕事が好きで長く働く人もいる、けれど、それを強制されることはないと答えていました。日本は、正社員である限り、突然の残業を命じられても断りにくい、他の人が働いている時に自分だけ早く帰れない、上司や同僚によく思われたい、出世に響くなど、長時間労働を避けながら昇進してキャリアを積むことは「慣習的に」ほとんど不可能です。だからといって、労働効率がよいわけではありません。ワークライフバランスが底しているヨーロッパの方が、時間当たり労働生産性は高いのです。日本では、長時間労働する必要がない人まで、長く勤務する慣行ができあがっているのです。その上、日本の大都市部では世界一長い通勤時間も加わります。それで成り立ってきたのは、正社員男性には専業主婦がいて、家庭責任を負わないで済むからです。となると、女性は、母親を専業主婦代わりとして使えるなど幸運に恵まれない限り、結婚して子どもを育てながら、キャリアコースにはなかなか乗れません。夫たる男性も長時間労働であることがほとんどなので、夫の手伝いも期待薄なのです。欧米でもアジアでも、管理職であっても原則定時に帰ります。もしそうでない職場があれば、優秀な人材は転職して出て行ってしまおうでしょう。日本の年功序列慣行の元では、転職して別の所で活躍する道が見えないので、キャリアを積むためには、長時間労働を甘受するしかないのです。



内閣府「共同参画1月号」より
中央大学教授 山田昌弘

[編集後記]

久しぶりにお雛さんを出しました。娘の幼いころの思い出がよみがえって、少し心があたたかくなりました。

S. I

編集発行：ウィルあいち交流ネット

編集協力：(公財)あいち男女共同参画財団

企画協働課協働担当